

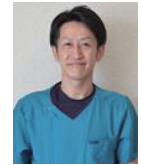
## 腰痛


 社会医療法人 敬和会  
 大分岡病院

総合リハビリテーション課



次長 大塚 PT



主任 安部 PT

## 職員およびリハスタッフの腰痛発生から対策開始

- 職員保健推進室からの依頼で実施したアンケートで回答者の6割に腰痛  
⇒ 希望者に対する腰痛予防指導開始
- リハビリストッフに腰痛災害が発生  
⇒ ノーリフティングケアワーキンググループを設置



## 実施内容

- ① 希望職員へのスクリーニング評価・運動指導      ② 院内でのノーリフティングケアの推進

## 実施効果や工夫している点

## 評価・運動指導は業務として実施

- ① 希望職員へのスクリーニング評価および運動指導  
産業保健師から所属長に説明し、運動対象職員、理学療法士ともに業務の一部として認められるようにしている

## ノーリフティングケア導入前後の効果を見える化

- ② 院内でのノーリフティングケアの推進
1. ワーキンググループを組織し、スタッフ数名が研修会参加。床走行式リフトをレンタルすることから開始。
  2. リハスタッフを対象に、導入前後でアンケートを実施し客観的な有用性を確認
  3. アンケートによる客観的な導入効果の提示と日本理学療法士協会の腰痛予防対策参加施設への認定などの実績により、リフトの購入が可能となった
  4. 2021年度より院内労働安全衛生委員会活動として、新たに介護職員を含めた病棟チームを結成

## 腰痛対策の取り組み



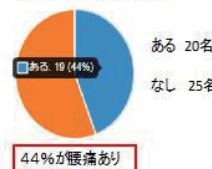
腰痛職員の評価と運動指導



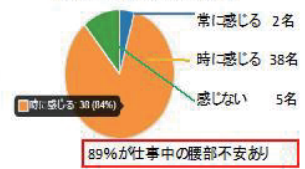
床走行リフト機器の使用

## 腰痛アンケート(リハ職員45名)

質問1: 腰痛はありますか?



質問2: 仕事中の腰の不安は?



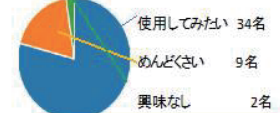
質問3: 仕事の重労働は☆いくつ?

平均 ☆☆☆ (2.8)  
 20代 ☆☆☆ (2.8)  
 30代 ☆☆☆ (3.4)

※首痛者・ケガ・褥瘡を除く

年齢により重労働感が変わる

質問4: リフト機器の印象は?



使用したい76%→リフト機器を検討

## 今後の課題

ノーリフティングケアは医療・介護職員の高齢化が進む我が国において非常に重要なテーマであると思います。「業務化」に向けては労働安全上あるべき姿を明確に掲げ「多職種」で取り組むことが今後の課題であると考えています。